

あしがき 「竹林整備とメンマ」

竹は江戸時代までに中国から移入されたと言われていました。

タケノコ生産、建築・農業資材等に利用されていたため、当時は竹林も整備されていました。

高度経済成長期にプラスチック等竹に替わる代替材が出てきたため竹材の消費が激減し、タケノコについても安い外国産材の輸入により国産品の消費が低迷し、竹林に対する関心が薄れ、放置竹林が増える原因となりました。

それに加えて竹は旺盛な繁殖力のため、爆発的に竹林の面積を拡大させ、現在では、日本古来の森林生態系を破壊し、人間の居住空間に侵入し、降雪時には、道路に垂れ下がり交通を遮断する等人間生活の安全性をも脅かす存在となってきました。地方自治体では、毎年巨額の税金を投じて竹林の整備をする必要があり、環境問題・社会問題となっています。

こうした状況を何とかしようと地域住民が立ち上がり、地域の自治組織と会社組織と連携して竹林整備を行っているのが、「天竜川鷺流峡復活プロジェクト」です。

南信州地域振興局管内の竹林面積は、県下10の地域振興局内でも最も広く、また森林における竹林の占める割合も最も高いことからこうした取り組みを取材する中で、整備した竹林の維持管理を行う手段として、毎年春に出てくる幼竹を収穫し、竹林の維持管理と収穫した幼竹をメンマに加工し食する取り組みをしていることに着目し、竹をメンマにして食するということから竹林整備に関心を持っていただきたいという思いでメンマ料理レシピの発行を行うこととしました。

令和3年3月